

令和7年度第2回青梅市図書館運営協議会会議録

日 時

令和7年7月24日（金）午後6時

会 場

青梅市中央図書館多目的室

出席者

（委 員）

沖川委員、平岡委員、実森委員、園田委員、伊藤委員、松井委員、
中島委員

（事務局）

平岡社会教育課長、石田係長、金井

島田館長（指定管理者）、図書館スタッフ2人（指定管理者）

欠席者

（委員）

島田委員

1 あいさつ

会 長

2 報告事項

(1) 指定管理者による図書館の管理運営について

（指定管理者）[資料にもとづき説明]

（委 員）今年度の音訳者養成講座（障がい者福祉課主催、中央図書館共催）は全8回とかなり力を注いでいるので、是非、修了者に音訳の活動に参加してもらいたいと思う。

（事務局）講座の最終日の最後の時間に、市内で活躍する複数の音訳グループが自らの活動を紹介する時間がありました。今回の修了者が具体的に活動に参加され、活動するのはこれからだと思います。

（委 員）6月14日開催の「中央図書館大人向けおはなし会」に54人という多くの参加者があったが、何かきっかけがあった

のか。

(指定管理者) 通常の子ども向けおはなし会で回を重ねて宣伝したこと、おとな向けのおはなし会は非常に珍しく年に2回の実施のみのため、参加者が多かったと捉えています。

(委員) 今回の報告にはないが、前回報告のあった中央図書館4階の図書の盗難について、その後の対策と効果を教えていただきたい。

(指定管理者) 6月1日から、4階の座席を利用する方に、首から下げるストラップ型の「入室証」を渡しています。また、入室後、一時的に席を離れた場合、戻る際にも「入室証」を御提示いただいています。

大きなバックをお持ちの方には、「退室されるときに中を確認させていただくことがある」と、入室時に声掛けをしています。

これらの運用を開始して2か月経過しますが、御利用される方にも御協力をいただき、特に混乱はありません。

今後、9月に蔵書点検を行うので、盗難が継続して発生しているかの確認をします。

(会長) 「音訳者養成講座」や、今年度の目玉事業の「図書館を知ろう」講座の参加年齢はどの層か。

(指定管理者) 「音訳者養成講座」参加者は、50～60代の女性を中心でした。「図書館を知ろう」講座参加者は、50～60代の方が中心ですが、開催回によっては10代の参加者もありました。

(会長) 「図書館を知ろう」講座は、すぐに活用できる資料検索手段をはじめ、普段、触れることが少ない図書配架方法等もテーマに挙げており、工夫されている。この講座を受講したら、日頃の資料検索やツールの選択が充実するので、若者が活用できることも多いのではないかと思った。

3 協議事項

(1) 青梅市図書館基本計画(令和8年度～12年度)(案)について

(事務局) [資料にもとづき説明]

(会長) 基本計画の修正点については、文言の技術的な表現の言い回しの修正だと思いますので全く異論はありません。

図書館利用アンケートの取り方ですが、ホームページに二次元コードが掲載したのか、それとも、別途、掲載したチラシ等が図書館にあったのか。

(事務局) 二次元コードは図書館内のポスターに表示しました。ホームページに掲載すると、青梅市図書館の利用者以外からの意見も寄せられ、有効な意見を把握することが難しいと考えました。パブリックコメントの意見に同様の内容があり、この考えにもとづき回答文を作成しました。

(会長) 学校図書館の情報化の推進への協力は、指導室が推進する学校図書館の蔵書の電子管理なので、指導室が主体となり各学校のネットワークを構築し、図書館の蔵書の管理を行うとのことだが、図書館はどのように協力するのか。

(事務局) 学校図書館については、予算を持つ指導室が主体となり導入と運営をする予定です。図書館は、図書館の電子管理を行う中で持っている知識や情報を提供することにより、情報化の推進への協力を行います。

また、導入後も、学校と話し合いながら、図書館サービスの中で可能な協力を行います。

(会長) これは、これからの検討であって、指導室はまだ着手はしていない白紙の状態ですね。もし導入することになったら、図書館は側面協力しますよという理解という事によろしいか。

(課長) 指導室では、現在も導入の検討中です。図書館は、複数のシステム開発会社の情報を提供したりと、協力をしているところです。

4 その他

(事務局) [次回以降の運営協議会開催時期等について説明]

(会長) 以上で予定した案件は全て終了しました。

これをもちまして令和7年度2回青梅市図書館運営協議会を閉会とします。